

歴史～市政のあゆみ～

history of Fussa city

多摩川の悠久の流れとともに、着実に発展を続けてきたまち。遙かな都市の源流をたどる歳月が私たちに何かを語りかけています。それを感じ、輝く明日を創るのは私たちです。

福生不動尊遺跡から出土した遺物や長沢遺跡の集落跡から、すでにこの地では、縄文時代早期にあたる約1万年前に人間の活動が展開されはじめ、縄文時代中期にあたる約5000年から4000年前には大規模な集落を形成し、生活が営まれていたと推定されます。

武蔵七党・西党の小川氏の系図の中に初めて「福生」の名が登場したのは11世紀のことです。室町時代には八王子城主北条氏照の支配下にあり、江戸時代に入ると福生村は天領に、熊川村は天領、旗本領に分かれて統治され、幕末まで続きます。



多摩川の木橋（熊川）

明治34年



福生駅前通り

昭和21年

戦後は米軍横田基地を中心に急速な発展を遂げ、商店街は急速に大きくなりましたが、昭和37年頃から基地の町からの脱皮が真剣に考えられ、同年に首都圏整備法による市街地開発区域の指定を受け、都市計画を進めました。

昭和45年7月1日には、地方自治法の一部改正により人口3万8,749人をもって福生市となりました。その後、計画的なまちづくりが行われ、市民会館、福祉センター、茶室、中央図書館、体育館、リサイクルセンター、公園、道路、公共下水道の完成等、市民生活に必要な施設は大変に高い水準のものとなり、市民の健康づくりや文化、ふれあい活動が年々盛り上がりを見せています。

平成12年には、市制30周年を迎え、新たに平成22年を目標年度にACC（アクティブ、クリエイティブ、チャレンジング）を行動指針とし、すべての市民が、そして生まれてくる子どもたちが「福生市を愛し、ここに住む喜びと誇り」を基本理念に「やすらぎ

廃藩置県後、蕪山県や神奈川県に属し、明治22年の市町村制の施行によって福生村、熊川村は組合役場を設け、共同で事務処理をすることとなりました。その後、明治26年に東京府に編入されます。明治27年には、青梅鉄道の福生駅が開設し、大正14年には福生～五日市間にバスが運行、五日市鉄道も開通し、福生は西多摩地域の玄関として活気を呈すようになります。明治、大正、昭和にいたる福生は、酒造と製糸を地場産業とし、養蚕を中心とした農村地帯でした。

昭和14年、市の東北部に日本陸軍航空審査部と整備学校が設置され、人口が増加し、翌昭和15年に福生村、熊川村が合併して福生町となりました。



市制施行当時の福生市街

昭和45年

いきいき 輝く街 福生」を目指した第3期総合計画が策定されました。

平成14年4月1日から市民負担の公平性、ごみ減量・リサイクルの推進、排出者の意識改革、ごみ費用の軽減などを図るため家庭・事業所のごみ有料化を導入しました。

平成15年3月には福生市IT活用推進計画が策定され、ITを活用して従来の枠組み、意識を変え、新しい改革手法を探り、市役所も市民も地域社会も自立してお互いが支え合う、そのような住民自治の思想に根ざした自治体を創り出すための電子市役所を目指します。そして、すべての市民が「福生市を愛し、ここに住む喜びと誇り」を実感できる夢と希望を持った新たな福生市のまちづくりをすすめています。



ごみ有料化（戸別収集）

平成14年



市の花
つつじ



市の木
もくせい



市の鳥
シジュウカラ

福生市の歌

設楽千代子 作詞
丘 灯至夫 補作
團 伊玖磨 作曲

- 緑さわやか 武蔵野の
夢もゆたかに 弾心町
友と組む手が ぬくもりが
虹の未来を 築きます
ああ 福生
わが町 福生 ああ福生 いつまでも
- 光溢れる この町の
歩みいくとせ 今日もまた
ちから寄せあい 睦みあい
守るしあわせ すくすくと
ああ 福生
わが町 福生 ああ福生 いつまでも
- 花の香りや 七夕や
多摩の流れに 飛び傘
生きる喜び 抱きしめて
清く 明るく たくましく
ああ 福生
わが町 福生 ああ福生 いつまでも

福生音頭

池野美千留 作詞
西 沢 爽 補作
万城目 正 作曲

- ハア
意気でひらいて 笑顔で住んでヨ
夢が花咲く 街づくり
歌い囃せや 東も西も
福生繁昌のナ 人の波
サテ 福生かサッサで
弥栄 ホイ
- ハア
恋をすりゃこそ 七夕さまもヨ
晴れて今夜は 違いなさる
福生うれしや 情の街よ
人の心もナ 輪つなぎに
サテ 福生かサッサで
弥栄 ホイ
- ハア
多摩の岸辺にゃ やさしい桜ヨ
柳山から春霞
変る時代に 変らぬものは
富士の姿とナ 花の色
サテ 福生かサッサで
弥栄 ホイ
- ハア
すすむ文化に のびゆく道路ヨ
結ぶ鉄道は たすきかけ
栄え栄える 福生の空は
街の灯がナ 虹となる
サテ 福生かサッサで
弥栄 ホイ

福生よいとこ

横井 弘 作詞
山口俊郎 作・編曲

- ハア 花の空から 雲雀が唄う
街の中から ヨイトコラサッサ
福が生まれる 夢が湧く
(福生よいとこ コラサッサ
みんな揃って キタサッサ)
- ハア 年に一度の 七夕まつり
恋の二人にゃ ヨイトコラサッサ
銀座通りが 天の川
=()内くり返し=
- ハア 嫁にするなら 福生の娘
多摩の流れに ヨイトコラサッサ
磨きぬかれた 玉の肌
=()内くり返し=
- ハア 毎日拓ける 武蔵野台地
変わらないのは ヨイトコラサッサ
あつい情けに 月のかけ
=()内くり返し=
- ハア 富士のお山よ
ちよいと見ておくれ
心ひとつに ヨイトコラサッサ
伸びる福生の 晴れ姿
=()内くり返し=

福生七夕音頭

高橋一郎 作詞・曲
下畑 薫 編曲

- 今夜は地球がチョイト騒がしい
よく見りゃ日本のど真ん中だよ
こーよ こーよ 七夕に
ふっさの ふっさの 七夕に
踊り明かそうよ キラキララ
福がうまれる キラキララ
アー星祭り
- 輝く笑顔でチョイト見つめあう
年に一度は福生で逢おうよ
こーよ こーよ 七夕に
ふっさの ふっさの 七夕に
浴衣姿が キラキララ
風に吹かれて キラキララ
アー星祭り
- 七夕踊りでチョイト夢心地
サラサラ笹の葉夏のはるさと
こーよ こーよ 七夕に
ふっさの ふっさの 七夕に
多摩の流れが キラキララ
天の川だよ キラキララ
アー星祭り
- 一番星ならチョイトここにきて
見上げてみようよ福生の未来を
こーよ こーよ 七夕に
ふっさの ふっさの 七夕に
弾むところが キラキララ
夢を広げる キラキララ
アー星祭り